

乳製品摂取と甲状腺がん罹患リスクの関連： 宮城県コホート研究と大崎国保コホート研究によるプール研究

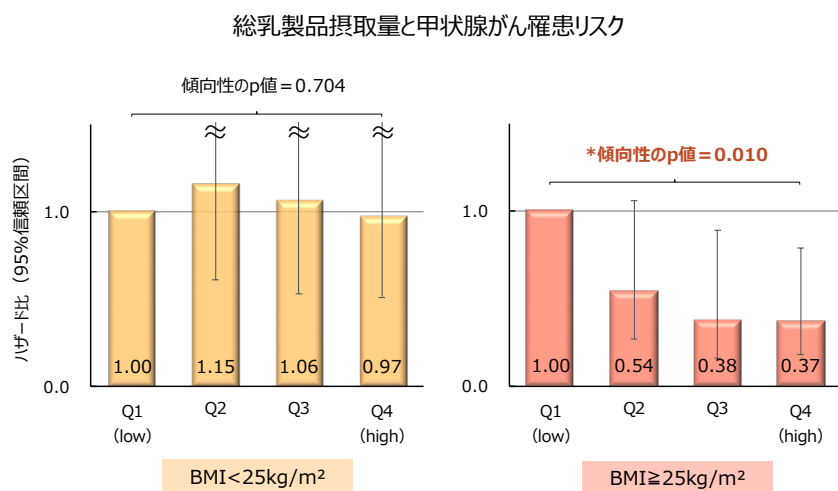
Dairy consumption and incident risk of thyroid cancer in Japan: a pooled analysis of the Miyagi Cohort Study and the Ohsaki Cohort Study.

2022 年 European Journal of Nutrition 発表

BMI が 25 以上の女性では、乳製品摂取で甲状腺がん罹患リスクが低下

乳製品の摂取は、大腸がんや乳がんのリスク低下と関連し、抗腫瘍効果が期待されています。しかし、乳製品と甲状腺がんとの関連を検討した先行研究は乏しく、加えて日本人を対象としたエビデンスはありません。本研究では、大規模な前向きコホート研究である宮城県コホート研究と大崎国保コホート研究のデータを統合して、乳製品摂取と甲状腺がん罹患リスクとの関連を検証しました。

その結果、BMI が 25 以上の女性では、乳製品摂取によって甲状腺がん罹患リスクが低下する可能性が示唆されました。



研究のデータについて

本研究は、宮城県内の2つの研究データを用いて解析を行いました。1つ目は宮城県コホート研究で、1990年6-8月に宮城県内14町村在住の40-64歳の男女約51,921名に対して自己記入式アンケートを配布し、そのうち47,605名から有効回答を得ました（回答率：91.7%）。2つ目は大崎国保コホート研究で、1994年10-12月に宮城県大崎保健所管轄14市町（当時）居住の40-79歳の国民健康保険加入者54,996名に対して健康に関する自己記入式アンケートを配布し、そのうち52,029名から有効回答を得ました（回答率：94.6%）。本研究ではこのうち、追跡開始日以前に異動した者、がん診断日が不明であった者、両コホートに登録していた者の大崎国保コホート分を除外し、さらにベースライン時点でがん既往歴のあった者、乳製品摂取頻度の質問に回答しなかった者、極端な総エネルギー摂取量を回答した者を除いた64,340名について分析を行いました。追跡期間は、宮城県コホート研究で24.5年、大崎国保コホート研究で13.25年であり、この間に計190件の甲状腺がんの罹患（男性：29件、女性：161件）を確認しました。

乳製品摂取について

総乳製品摂取量は、アンケートの回答から牛乳・ヨーグルト・チーズの摂取量を合計し、男女別に四分位に分類しました。総乳製品摂取量が最も少ない群を基準群として、甲状腺がん罹患リスクとの関連を検討しました。

他のリスク要因の影響について

本研究では、乳製品摂取と甲状腺がん罹患に関連すると考えられる要因の影響を考慮したデータ解析を行っています。具体的には、年齢、性別、BMI、糖尿病の既往歴、教育歴、喫煙、飲酒、歩行時間、総エネルギー摂取量、さらに女性では、出産回数、初経年齢、月経状況について偏りが無いように統計学的な処理を行っています。

研究の特徴と限界について

本研究の特徴は、（１）一般住民を対象とした２つの大規模コホートデータを統合して甲状腺がんの罹患者数を増やした点、（２）アジアで初めて乳製品摂取と甲状腺がん罹患リスクの関連を示した点です。一方、研究の限界として、（１）追跡期間中の乳製品摂取量の変化が不明であること、（２）ヨーグルト、チーズ以外の発酵乳製品や調理の際に使用した乳製品が調査項目に含まれていないことなどが挙げられます。
